

2015 年度（対象年度：2014） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
503	適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	⑤収容定員に対する在籍学生数比率は適切ですか。 ○定員に対する在籍学生数の過剰・未充足への対応	B	B

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。
503⑤入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。2014 年度における全学部の平均値は、入学定員に対する入学者数の割合は「1.06」、収容定員に対する在籍者数の割合は「1.08」となっており適正に維持している。 研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、修士課程が「0.62」、博士後期課程が「0.63」、法科大学院が「0.16」となっている。また、収容定員に対する在籍学生数の割合は、修士課程が「0.67」、博士後期課程が「0.68」、法科大学院が「0.45」となっており、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。 2014 年度においては、2016 年度入学生から適用される新奨学金制度を整備した。そのうち「大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）」は、その対象を「本学学部から本学大学院修士課程に進学する者または本学大学院修士課程から本学大学院博士後期課程に進学する者」とし、学部と大学院を接続させ、学部生の入学を促進するため入学生受け入れ方策の一つとしている。 2013 年度から引き続き、各研究科の特色ある取組を共有し、他の研究科の教育改善に結びつけるため、年度当初に研究科全体及び各研究科の教学展開上の重点政策を大学院委員会で確認した。
〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。
（自ら「改善すべき点」と掲げた事項） 研究科における未充足状態を改善し、さらなる入学者確保のため、引き続き「多様な知識を修得するための教育課程の制度設計」、「学生の研究支援のあり方」、「入学試験制度の見直し」、「学費のあり方」、「社会人を対象とした大学院生確保の方策」等について全学的な視点から検討し、実施可能なものから随時行っていく。 （「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項） ・「一部研究科の未充足問題」について、改善に向けて引き続き改善・実行する必要がある。【努力課題】 ・研究科の場合（社会人入学は除く）も修了後の進路についてキャリアセンターと連携強化し、サポート体制を全面的に打ち出すことで修了後の進路に対する不安も和らぎ、母集団形成にもつながると考える。検討願いたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

学内進学者、学外からの進学者、社会人、留学生それぞれの進学動機や学修目標の分析を行い、研究科ごとの志願動向分析を行う。また、それぞれの研究科が安定的に学生を確保し、競合他大学に対して競争力を維持し続けるために、志願者動向の状況把握と改善する取り組みを日常的に整備する取り組みを検討する。研究科修了生の進路支援について、キャリアセンターとの連携強化を図る。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
503	学校法人実態調査【様式 1- (1)】
503	奨学規程
503	龍谷大学給付奨学生選考細則

Ⅱ. 評価結果

総評	
昨年も努力課題となった、研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。 2016年度入学生から適用される新奨学金制度を整備し、「大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）」は、その対象を「本学学部から本学大学院修士課程に進学する者または本学大学院修士課程から本学大学院博士後期課程に進学する者」とし、学部と大学院を接続させ、学部生の入学を促進するため入学生受け入れ方策の一つとしている。 加えて、2015年度第1回大学院委員会において、各研究科個別の改善方策の実施をめざすと改善報告書が提出されている。	
伸長すべき点（長所）	《箇条書き》
改善すべき点	《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。 【努力課題】	
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要	